

動き出しは本人から「利用者視点」の介護技術

介護専門職の総合情報誌

# おはよう21

8

August  
2015

第28巻9号(通巻323号) 2015年7月1日発行(隔月1日発行) (6127円税別)

利用者視点から始める  
新しい  
介護技術の  
レッスン

特集

在宅特集

場面別 外出介助のポイント

おはようインタビュー

熊谷晋一郎さん (東京大学先端科学技術研究センター准教授)

鎌田實の△な介護のすすめ

対談 エディー・ジョーンズさん

中央法規



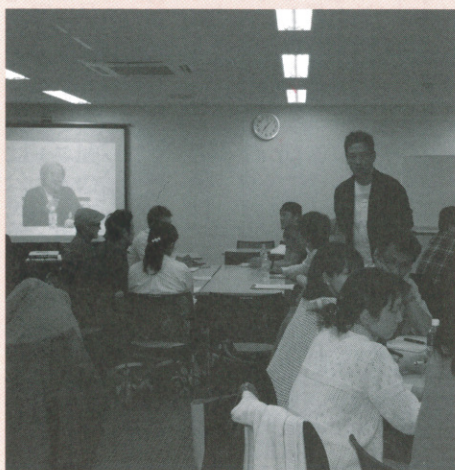
# 施設から地域へ

②

## 「こぶし園・小山剛さんの遺志を継ぐ実践者たち

我が国でいち早く地域で小規模多機能サービスを展開し、その後の小規模多機能型居宅介護の制度化に大きな影響を与えながら、今年3月に急逝されたこぶし園（新潟県長岡市）の総合施設長・小山剛さん（享年60）。その業績を偲んで4月末には、神奈川県藤沢市にて、小規模多機能型居宅介護の実践者を中心とする集まりが開かれました。その中心となった3名の実践者に、小山さんの敷いたレールをどのようにつないでいくのかを伺いました。

4月末に開かれた集まりの様子



### ① 自治体、企業、事業所を巻き込んだ街づくりを

加藤忠相さん（あおいけあ）

神奈川県藤沢市で小規模多機能型居宅介護とグループホームを運営する加藤忠相さん。「第1回かながわ福祉サービス大賞」を受賞するなど、その活動は福祉関係者の注目を集めています。小山さんとは全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会を通じてつきあいがありましたが、加藤さんは小山さんの活動について次のように話します。「小山さんといえば『特養解体』というフレーズが注目されますが、私はその発想力と突破力がすごいと思います。介護保険制度の矛盾について危機感を抱き、その危機感、おかしさを可視化して国とつき合ってきたのは大きいですね」

加藤さん自身、特別養護老人ホームの勤務を経て事業所を立ち上げたこともあり、特養などの大規模施設から地域展開してい

ニーズに対応するシステムづくりが不可欠」と言います。

現在、小規模多機能型居宅介護の使われ方として、通いを基本としつつ、訪問と泊まりを組み合わせるのが一般的です。しかし、「訪問を厚くすることこそが在宅生活の大きなカギであり、通いや泊まりとのバランスをとるマネジメントがソフトの命運を握る」と菅原さん。ぐるんとびーでも、新たな小規模多機能の活かし方が期待されます。

### ③ 人材を確保するしくみづくりを

飯塚裕久さん（ケアワーク弥生）

東京・根津で小規模多機能型居宅介護事業所「ケアハウス弥生」を運営する飯塚裕久さん。「制度を通して国を変えてきた点が小山さんのすごさ」と評します。「小山さんたちの考えを国に取り入れて政策を創ってきたところがあると思うんですね。とても他の人に真似できないことですから、僕たちは小山さんたちがしてきたことの一部を使わせてもらってやっていくしかないと思います」。

飯塚さんと小山さんではおよそ20歳の差がありますが、自分たちの年代が今後の介護を担うと飯塚さん。その中で自分がすべきことを次のように話します。

「人材の確保については、質と量の問題

プールなどの個別ニーズにも対応できるのも小規模多機能の強み（写真右が菅原健介さん）



加藤忠相さん



くことの大変さや意義を、身を以て体験しています。だからこそ、小規模多機能型居宅介護という制度を現場から作り上げてきた小山さんに敬意を払いたいと思います。「小山さんは国とのつきあいも多かったようですが、私自身、役所の若手の職員との連携は非常に重要だなと感じています。自分自身は『介護屋』として、まず自治体ベースで、現場での実践からケアの質を上げていきたいと思っています」

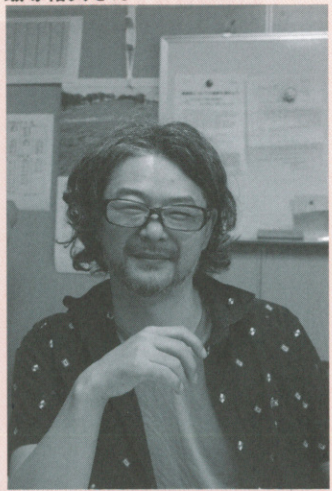
あおいけあの現場の実践は全国的に注目を集めつつあるものの、事業所が一人勝ちしても意味がないと加藤さん。点の活動を線、さらには面にしていくために、他事業所、企業、自治体と手を組みながら、地域で暮らし続けられる街・藤沢を体現していきたいと話します。

### ② サービスのシェア—小規模多機能の大きな可能性

菅原健介さん（ぐるんとびー）

今年夏から小規模多機能型居宅介護を神

飯塚裕久さん



があります。質はキャリアアップなどの仕組みづくりで対応すると、量の確保は待ったなしです。まずは業界で働く人間を増やすこと。次にそのなかで、小規模多機能で働きたいという人間が増えてくるのが大切です」

職員同士の対話を促し、気づきを得る「もんじゅ」の活動でも知られる飯塚さん。介護現場の良さを伝える伝道者としての活動に大きな期待が寄せられます。

★ ★ ★

今回紹介した3名の実践者は、三者三様のやり方で介護を変えていくという気概にあふれています。小規模多機能というフレームだけでなく、そのDNAも受け継いだ次の世代に今後とも注目していきましょう。